



愛川ふれあいの村 今月の風景

2022年3月 自然のたより

3月になると果樹園周辺の梅が満開となり、グラウンドの土手にある河津桜が咲き始めます。それに刺激をうけ村の花々が咲き始めます。今年もミツマタやサンシュユ、トサミズキ、ホトケノザ、タンポポ、カタクリ、スミレと心を和ませる姿を観察できました。シダレザクラ、ソメイヨシノ、オオヤマザクラ、八重桜と今後もふれあいの村を彩ってくれると思います。心配なのが小鳥たちの巣作りの様子を観察できていません。コロナの影響で人間と同様に鳥たちのライフワークも変わってきたのでしょうか。子育ての様子は、いつ見ても癒されますね。気になる方は、今後の自然のたよりやブログでの報告に注目してください。(加藤)



カントウタンポポ



オオイヌノフグリ



カタクリ



オオバヤシャブシ



オカスミレ



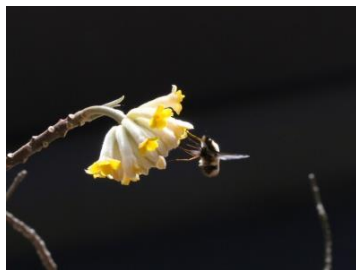
フキノトウ



ミツマタ



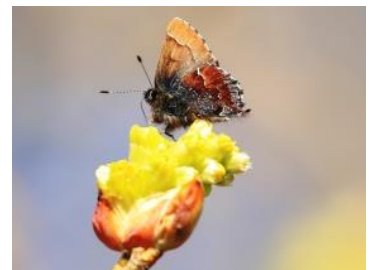
傷ついた翅のアカタテハ



ピロウドツリアブ



越冬したルリタテハ



早春に飛ぶコツバメ



モズ♂



餌を探すコゲラ



シジュウカラ



悠然としたツミ

トピックス ★一緒に暮らすために★

～総合的な視点～

早いもので、2021年度が終わり、新しい年度が始まろうとしています。村の生き物たちはどのような1年間を送ったのでしょうか。何か困ったことはなかったでしょうか。

私たちも経験があると思いますが、あったはずの場所から物がなくなっていたら困りますね。これは鳥なども同じで、渡りのときにいつも立ち寄る場所の木がなくなっていたとします。その木には実がたくさんついて、鳥たちの憩いの木となっていました。しかし、ある年来てみると、「あれ？木がない！食べ物がない！！」ということになるのです。この鳥たち、その地には二度と来ないかもしれません。

これはひとつの例で、生き物によっては環境の変化により敏感なものもあります。隠れ家となる藪がなくなる、いつも食べていた草がなくなる、急に高い塀ができて向こう側へ行けなくなるなど生き物は常に生活の危機にさらされています。私たちもいつも使っているスーパーや病院がなくなったら困りますよね。でもそれは、新しい場所を探すか、住む場所を変えれば解決するかもしれません。

生き物にとってはそう簡単な問題ではありません。私たちのように順応力の高い生き物であればまだ選択し生きる道を模索することができるでしょう。しかし、そうでないものはどうなるのでしょうか。地球上で一緒に暮らす生き物のことも考えながら生きてはみませんか。そうすることで、生き物同士のつながりが見えてくるかもしれません。(石川)

エノキの落ち葉で越冬する幼虫

エノキの芽

無事に育ったオオムラサキ



生き物 ★恥ずかしがり屋の鳥★

アオジという野鳥がいます。高山や北国で繁殖しますが、冬は平地や南の地方で冬を越す野鳥です。

数は多いはずなのになかなか姿を見つけることが出来ません。市街地の藪の中にもいますが、人の気配がすると「チツ」と短い金属音の声とともに茂みの中に隠れてしまうシャイな鳥です。大きさはスズメより少し大きく、背中には地味な茶色ですが、喉から胸と腹にかけては鮮やかな黄色、頭は緑がかった渋い色で可愛い鳥です。それでも、桜の咲く頃になると、梢で「チッコンピーチローチチロジー」と優しくリズムカルな声で囀る姿を見ることが出来ます。

晴れた朝、散歩をしていると、どこからかアオジの声が聞こえてきます。去年は5月2日まで村で観察出来ました。(高梨)



旬 ★アシタバ★

今日、葉っぱを摘んでも明日には若葉が出ることから『明日葉』と名付けられました。

『アシタバ』は、日本原産の植物で、セリ科シシウド属の多年草です。古来よりビタミン・ミネラル・食物繊維等が多く含まれ薬草として活用され、現在でも健康食品の材料になることが多いです。

食べ方としては、油との相性があるので、てんぷらで頂くのが最高です。アシタバには独特な苦みやクセ、香がありますが、下茹ですることによって、苦みと香りが和らぎます。炒め物やおひたし、和え物等で栄養価の豊富なアシタバを食べてはいかがでしょうか。

(菅原)



来月の見どころ

スズメたちのお花見

温かな風が吹き、春の陽気に誘われたのか冬越しをしたキタテハやテングチョウ、翅の青いルリタテハなどが花の蜜を求めて楽しみに飛んでいた。黄色のトサミズキやダンコウバイ、ミツマタやサンシュユなど木々の花も咲き、桜の花が咲き始めた。

ふれあいの村には9種類ほどの桜が見られますが、ソメイヨシノの花が咲く頃になるとスズメたちの面白い行動が見られるので注目してほしい。

花が咲くと、甘い蜜を美味しそうに吸っているのがメジロやヒヨドリたちである。スズメは、口ばしがメジロやヒヨドリのように鋭くないので上手く蜜を吸えないが、スズメたちはみんな学習し花を支える筒の部分に蜜があると気付いた。そして、花の付け根の部分をつまみ食いちぎり蜜を吸うようになったのである。

数年前まではふれあいの村には、たくさんスズメたちが暮らしていたが今はいない。巣箱などを設置しこの桜の時に住みつけるようにしたい。

桜の木の下に五枚の花びらがまともったまま落ちていたら、そっと見上げてみよう。そこではスズメたちの楽しい行動を垣間見ることが出来るだろう。(吉田)

